

JIS

防護服－機械的特性－
材料の突刺及び動的引裂に対する
抵抗性試験方法

JIS T 8050 : 2005

(JSAA/JSA)

平成 17 年 12 月 25 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 労働安全用具技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	吉 識 晴 夫	帝京平成大学
(委員)	芦 谷 彰 克	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
	市 川 健 二	社団法人産業安全技術協会
	小 川 孝 裕	財団法人日本防災協会
	笠 井 一 治	日本安全靴工業会
	竹 内 宣 博	株式会社千代田テクノ
	谷 澤 和 彦	日本安全帽工業会
	利 岡 信 和	社団法人日本保安用品協会
	中 村 富 也	厚生労働省
	西 本 右 子	神奈川大学
	能 見 和 司	電気事業連合会
	明 星 敏 彦	独立行政法人産業医学総合研究所
	村 上 博 幸	日本原子力研究所
	森 正 晴	川重防災工業株式会社
	山 崎 弘 志	建設業労働災害防止協会
	山 本 為 信	山本光学株式会社
	吉 田 孝 一	社団法人日本電機工業会

主 務 大 臣：厚生労働大臣， 経済産業大臣 制定：平成 17.12.25

官 報 公 示：平成 17.12.26

原 案 作 成 者：社団法人日本保安用品協会

(〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-15 和光湯島ビル TEL 03-5804-3125)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：労働安全用具技術専門委員会 (委員長 吉識 晴夫)

この規格についての意見又は質問は，上記原案作成者，厚生労働省労働基準局 安全衛生部労働衛生課環境改善室 [〒100-8916 東京都千代田区霞が関 1-2-2 TEL 03-5253-1111 (代表)] 又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 [〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお，日本工業規格は，工業標準化法第 15 条の規定によって，少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され，速やかに，確認，改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本保安用品協会(JSAA)／財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、厚生労働大臣及び経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

制定に当たっては、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎にした国際規格原案の提案を容易にするために、**ISO 13995:2000, Protective clothing – Mechanical properties – Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials** を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。厚生労働大臣、経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任をもたない。

JIS T 8050 には、次に示す附属書がある。

附属書 A (参考) 材料及び衣服の突刺及び動的引裂試験の詳細に関する参考情報

附属書 1 (参考) **JIS** と対応する国際規格との対比表

目 次

	ページ
序文	1
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 定義	1
4. 試験装置及び手順	2
4.1 突刺及び動的引裂試験の原理	2
4.2 引裂の種類及び測定	2
4.3 性能水準	2
4.4 試験装置	2
4.5 落錘・刃物保持ブロック	3
4.6 引裂用刃物	3
4.7 試験片装着ブロック及びクランプ	3
4.8 装置の準備	4
4.9 試験片の準備	4
4.10 試験片の装着	4
4.11 試験の実施	5
4.12 結果の分類	5
4.13 試験報告書	5
附属書 A (参考) 材料及び衣服の突刺及び動的引裂試験の詳細に関する参考情報	7
附属書 1 (参考) JIS と対応する国際規格との対比表	19
解 説	23

防護服—機械的特性— 材料の突刺及び動的引裂に対する 抵抗性試験方法

Protective clothing — Mechanical properties — Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials

序文 この規格は、2000年に第1版として発行された **ISO 13995**, Protective clothing—Mechanical properties—Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書 1 (参考)** に示す。

1. 適用範囲 この規格は、衣服にかぎ裂及び引裂によって許容限度を超える被害が及ぶか、又はバリアの完全性が失われる結果、衣服着用者に危険が及ぶ可能性のある状況下で使用する防護服の材料に対し、突刺及び動的引裂に対する抵抗性の試験方法について規定する。この規格は、この規格によって測定された性能水準が、事故によって起こる突刺及び引裂の大きさに関係する傷害リスクの状況下で使用される材料を特定することを目的としている。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 13995:2000, Protective clothing—Mechanical properties—Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版 (追補を含む。) を適用する。

JIS L 1096 一般織物試験方法

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

3.1 試験片装着ブロック (Test specimen mounting block) 試験のために試験片を固定する金属製又はプラスチック製の堅固なブロック。

3.2 引裂用刃物 (Tearing blade) 試験片に穴をあけたり、引き裂いたりするための落下錘から突き出た先端が鈍い刃物。

備考 硬鋼製引裂用刃物は、曲率半径をもつ研磨したくさび形の先端をもち、鋭利ではないが、試験